



【調査の目的】

- 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

【調査の概要】

- 実施日：令和5年1月11日(水)
- 「大阪府」とは「大阪・公立学校」の結果を表しています。
- 中学2年の「社会」はA・B2種類の選択問題があり、本市では全校が問題Aを選択しました。
- 中学2年の「理科」はA・B2種類の選択問題があります。

- ・実施校数及び実施生徒数
  - 中学1年：18校(2,534人)
  - 中学2年：18校(2,567人)
- ・学力に関する調査
  - 中学1年：国語・数学・英語
  - 中学2年：国語・社会・数学・理科・英語
- ・生徒に対するアンケート
  - 各学年8問ずつ

【調査結果の取扱い】

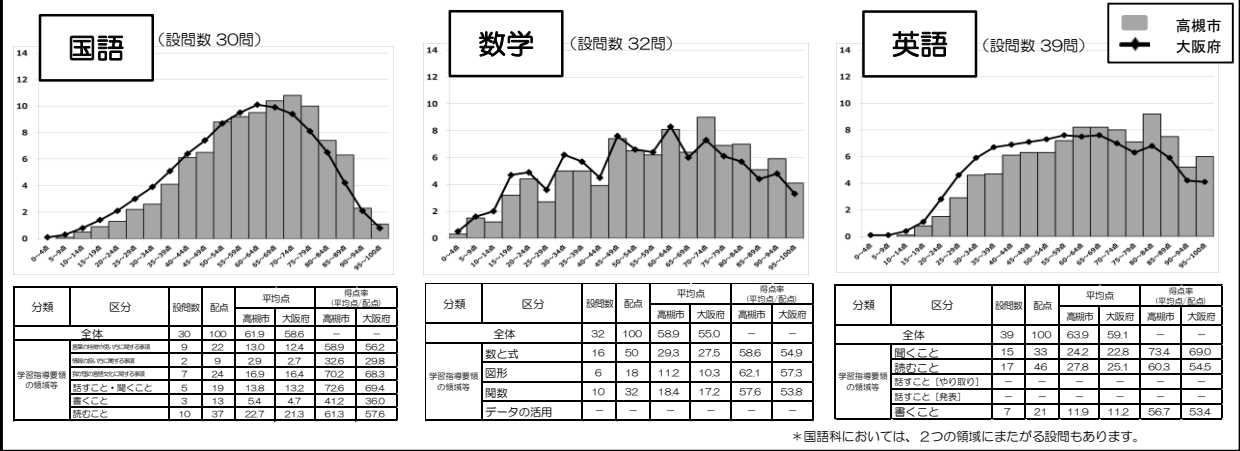
本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないように十分配慮をお願いいたします。  
 調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。

学年・教科	令和4年度(点)			
	高槻市	大阪府	差(対大阪府)	
1年	国語	61.9	58.6	3.3
	数学	58.9	55.0	3.9
	英語	63.9	59.1	4.8
2年	国語	62.2	59.6	2.6
	社会	45.6	44.4	1.2
	数学	52.4	49.0	3.4
	理科A	56.6	52.9	3.7
	理科B	56.3	53.1	3.2
英語	62.4	56.1	6.3	

正学  
年  
答率  
比較  
別(対大阪府)

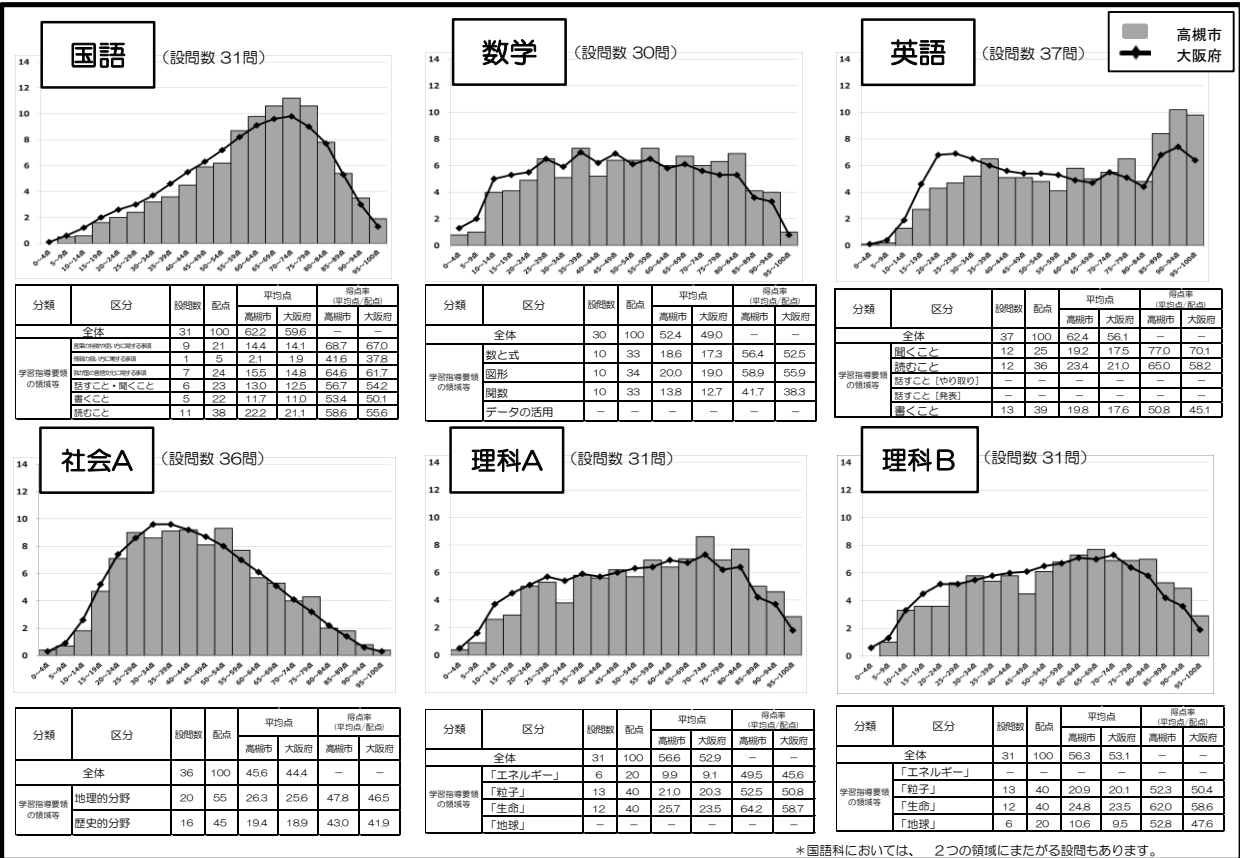
第一学年

得点分布グラフ 横軸：得点(点)、縦軸：割合(%) 領域別平均正答率/ 対大阪府比



\*国語科においては、2つの領域にまたがる設問もあります。

第二学年

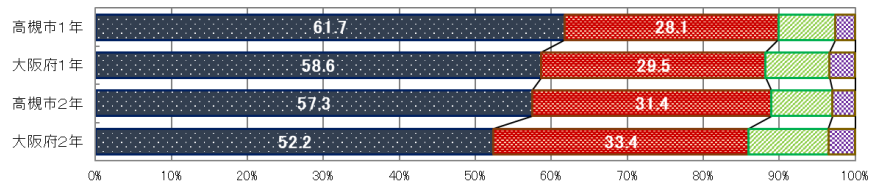


\*国語科においては、2つの領域にまたがる設問もあります。

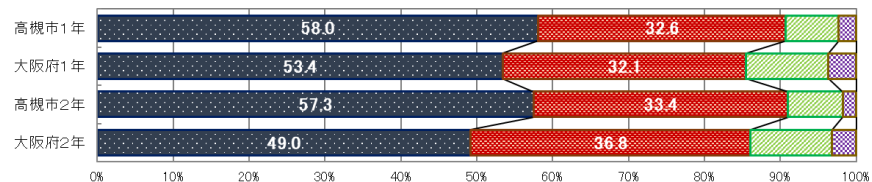
# 令和4年度中学生チャレンジテスト 生徒に対するアンケートの結果

■1.当てはまる ■2.どちらかといえば、当てはまる ■3.どちらかといえば、当てはまらない ■4.当てはまらない ■その他 □無回答

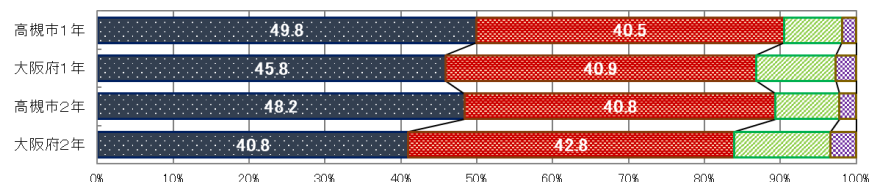
## 1 授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



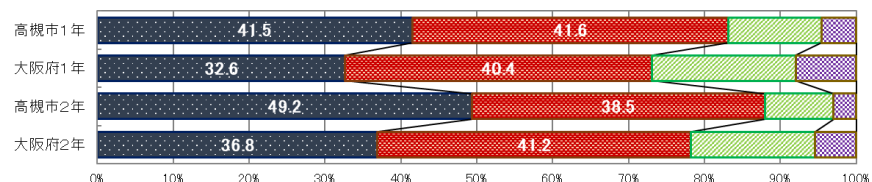
## 2 授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



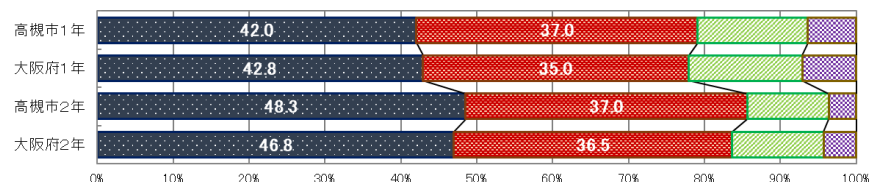
## 3 授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。



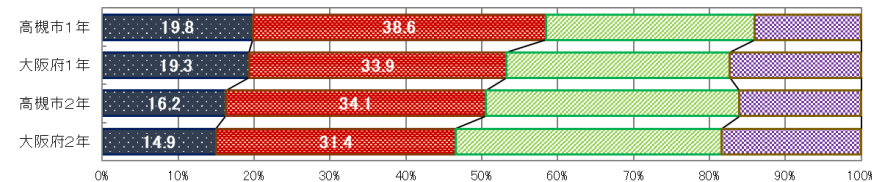
## 4 授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。



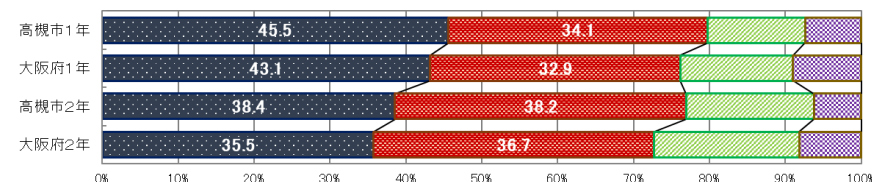
## 5 授業中、間違っても笑われない。



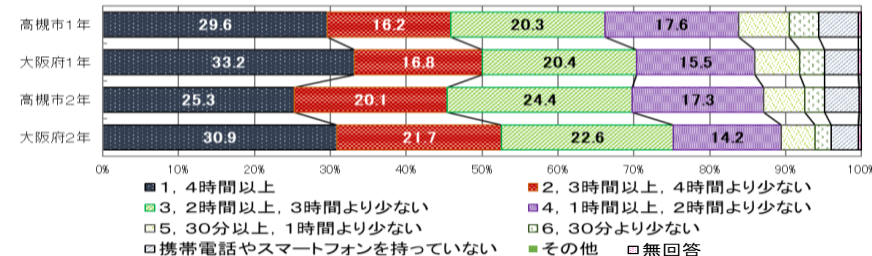
## 6 自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。



## 7 テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。



## 8 普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。



### 【各教科、及び生徒に対するアンケートの結果について】

- ・1、2年生ともに、全ての教科において大阪府平均点を上回りました。
- ・1、2年生ともに、全ての領域等において大阪府平均点を上回り、バランスよく学力が育まれていることが分かります。特に「思考・判断・表現」の観点や、「記述式」の問題形式における設問においては、大阪府平均点をより上回っている傾向が見られます。
- ・アンケート1～3は「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の状況を問っており、肯定的な回答が大阪府平均を上回っております。本市の生徒の「思考・判断・表現」の結果が大阪府平均を上回っていることから、自分の考えを持ち、その考えを伝え、話し合う活動を通じて他者の考えを理解するなど、授業改善は進んでいると捉えています。また、「知識・技能」については大阪府平均並みとなっております。
- ・資質・能力の育成は、「知識及び技能」の質と量に支えられており、基礎的・基本的な知識の確実な習得と、学習活動の中で新たな知識が既存の知識と相互につながり関連付けられるといった「知識の理解の質」を高めていくことが重要です。引き続き、「知識及び技能」の質と量高める授業づくりを意識していくことが大切です。
- ・アンケート5では、「当てはまる」と回答した1年生は、大阪府平均を下回りました。間違いから学ぶことは多くあります。子どもたちが安心して学び、自分の力を発揮できる教室であることが大切です。
- ・「アンケート6、7で肯定的に」、「アンケート8で使用時間が短い」と回答した生徒ほど、教科の平均点が高い傾向がありました。アンケート結果を参考にしながら、家庭での学習や生活を振り返り、今後に役立てることが大切です。